

## Eco-DRR 見学会の開催概要

### 1. 第1回 Eco-DRR 見学会 開催報告

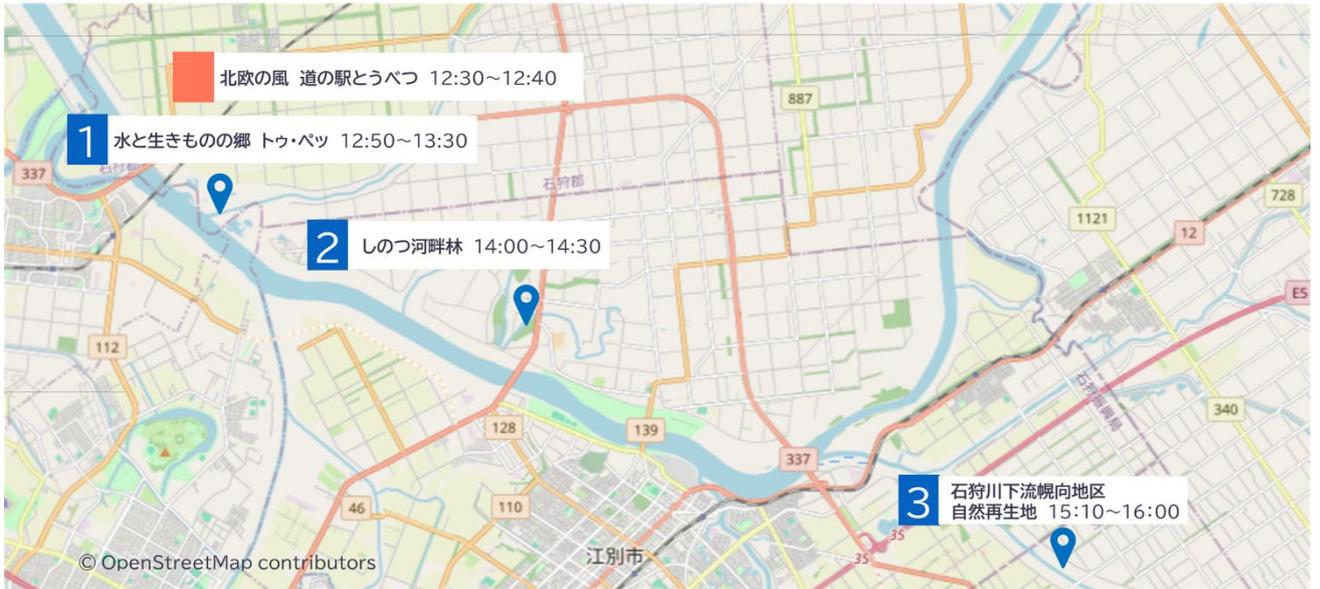
#### ■ 実施概要

日時	2024年11月8日(金) 12時30分～16時30分
目的	自治体職員向け見学会(2025年2月)に向けた有識者等による見学会
見学地	① 水と生きものの郷 トウ・ペツ ② しのかつ河畔林 ③ 石狩川下流幌向地区自然再生地
参加者	17名

#### ■ タイムテーブル

時刻	所用時間	内容
12:30		「北欧の風 道の駅とうべつ」に集合 ■
12:30 - 12:40	10分	挨拶、概要説明
12:40	10分	「北欧の風 道の駅とうべつ」出発
12:50		「水と生きものの郷 トウ・ペツ」着 ①
12:50 - 13:30	40分	札幌河川事務所による解説と質疑応答
13:30	35分	「水と生きものの郷 トウ・ペツ」発
14:05		「しのかつ河畔林」着 ②
14:05 - 14:35	30分	草野河畔林トラスト財団による説明と質疑応答
14:35	10分	「しのかつ河畔林」発
14:45		「野菜の駅ふれあいファームしのかつ」で集合し、休憩
15:10	25分	「石狩川下流幌向地区自然再生地」着 ③
15:10 - 16:00	50分	江別河川事務所による説明と質疑応答
16:00		「石狩川下流幌向地区自然再生地」見学終了
16:00 - 16:10	10分	まとめ及び挨拶
16:10		現地解散

## ■ 見学場所・結果



出典：Open Street Map に加筆して作成。

### ① 水と生きものの郷 トウ・ペツ

#### \* 札幌河川事務所の説明概要

治水安全度を確保しつつ、河岸の整備、植樹の推進、湿地や水面の復元を通じて、かつてあった多様な環境を取り戻し、様々な動植物が生育する「水と生きものの郷」を再生することを目指している。

#### \* 自治体の取組のヒントとなる視点

- ✓ 必ずしも特定の希少種を対象とする必要はない。
- ✓ 特定の環境だけの復元に捕らわれない、事業によってできた新たな地形など環境の変化を利用して、新たな環境を創造することも環境の保全につながる。



<集合・概要説明の様子>



<トウ・ペツ内の様子>

・主な内容

大項目	小項目	内容
事業創出の経緯	地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当別地区は河川改修によって治水安全度が向上した結果、土地利用が進展し、周辺地域の発展に大きく寄与してきた。その一方、河岸形状が単調化し、湿地・草地環境や樹林環境が減少してきた。現在は、かつての自然条件と大きく異なり、自然の回復力のみでは環境が維持できない状況にあると考えられる。</li> <li>● そのため、治水安全度を確保しつつ、現在の社会条件を維持しながら良好な河川環境を形成することによって多様な生物の生息環境を再生し、地域社会に貢献していくことが課題となっている。</li> </ul>
	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湖沼・湿地、草地環境の再生</li> <li>● 計画：北海道開発局 札幌開発建設部「石狩川下流自然再生計画書」（平成 19 年 3 月策定、平成 26 年 1 月改定）</li> </ul>
	実施主体、及び、関係者との関わり等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施主体：国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部</li> <li>● 関係者：NPO、有識者、行政関係機関から構成される「石狩川下流当別地区自然再生ワークショップ」にて検討・確認しながら、連携・協働により湿地の造成など当地区の自然再生を進めてきた。</li> </ul>
事業内容	主な実施内容	<p><b>【整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ワンド等の整備により、流速変化や浅場を整備</li> <li>● 高水敷を活用してポンドを造成</li> <li>● 拠点として周辺への種子供給となる母樹林の造成</li> </ul> <p>※平成 18 年度から始まった自然再生事業では、当別川合流点の高水敷を活用して、自然環境を回復、創出させている。</p> <p><b>【勉強会開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 石狩川下流自然再生勉強会（平成 26 年 1 月 29 日）の開催</li> </ul> <p><b>【モニタリング、フォローアップ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 効果検証のための調査、中長期的なモニタリング、フォローアップの実施</li> </ul> <p><b>【普及啓発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「水と生きものの郷 トゥ・ベツ」利用ガイド・マップ作成 等</li> </ul>
	規模（面積、金額、期間など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 整備面積：湿地 30ha、樹林 1ha 等</li> <li>● 期間：平成 19 年 3 月（計画策定）～</li> </ul>
事業の効果	測定方法・結果の活用方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在は 5 年ごとにフォローアップを実施し、専門家の意見を取り入れながら調査等を行っている。</li> <li>● 確認された鳥類、植物、両生類、昆虫類、魚類について、情報が公開されている（湿地の生物たち   札幌開発建設部）。</li> </ul>

事業を進める 上での課題と 対応	課題と対応	● 再生地の利活用が課題であり、地域との連携を推進する。
------------------------	-------	------------------------------

② し の つ 河 畔 林

\* 草野河畔林トラスト財団の説明概要

ナショナルトラスト活動の一環として、天然林のアカダモ、オニグルミ等の高木約700本に加え、オノコ、桜、山モミジ、ブナ等約3,500本を移植して、河畔林を保全及び整備が行われてきた場所で、樹木の健全な成長を促進させるための下草刈り、枯れた枝の排除、スズメ蜂の駆除、特定外来種であるオオハンゴンソウの駆除などの取り組みが行われています。また、市民を対象とした自然セミナーの実施、全道の小学5・6年生を対象とした環境教育ツアーも実施されています。

\* 自治体の取組のヒントとなる視点

- ✓ 堤防内の環境、民間の保全地など多様な環境と場所が、防災・減災のための要素になる。
- ✓ 保全の目的は異なっても、防災・減災に寄与する環境になり得る。



< 集合・概要説明の様子 >



< 河畔林内の様子 >

・ 主な内容

大項目	小項目	内容
事業創出の 経緯	地域課題	● 周辺の土地の開発や宅地化が進行していた。
	事業の目的	● 自然環境の適正な保全
	実施主体、及び、関係者との関わり等	● 実施主体：公益財団法人 草野河畔林トラスト財団 ● 関係者：自然セミナーに参加する一般市民 等
事業内容	主な実施内容	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 樹木の健全な成長を促進させるための下草刈り</li> <li>● 枯れた枝の排除</li> <li>● スズメ蜂の駆除</li> <li>● 特定外来種であるオオハンゴンソウの駆除 等</li> </ul> <p>【普及啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般市民を対象とした自然セミナーの実施</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「しのつ河畔林ガイドブック」の作成・配付</li> <li>● 河畔林文庫（予約制）の整備 等</li> </ul>
	規模（面積、金額、期間など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 面積：85,583 平方メートル</li> <li>● 金額：事業報告にて毎年度の事業計画、予算書、事業計画等の詳細が公開されている。</li> <li>● 期間：昭和 63 年～</li> </ul>

③ 石狩川下流幌向地区自然再生地

\* 江別河川事務所の説明概要

- ・夕張川流域には、かつて多様な湿生植物が生育する高層湿原が形成されており、この環境を保全・再生することを目指している。
- ・河川敷において、湿生植物が生育可能な水分条件を整えた上で、湿生植物を移植することにより、かつての湿原環境を保全・再生。

\* 自治体の取組のヒントとなる視点

- ✓ 湿原の再生というような限定的な目的のもとに保全には、技術開発・向上が必要となる。
  - ✓ 希少種の保全には技術と長い時間が必要なこともある。
- 多数の人に関わってもらうことで、防災・減災を考えるきっかけになる。



< 集合・概要説明の様子 >



< 再生地内の様子 >

・ 主な内容

大項目	小項目	内容
事業創出の経緯	地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 石狩川流域の湿地はこの 100 年間でその 99.9%が消失し、一部地域にわずかに残るばかりとなっている。治水事業や開拓で失われた自然を取り戻すため、川づくりの取組として自然再生が行われている。</li> <li>● かつて広がっていた幌向原野は湿原植生の先進的な研究フィールドとして知られており、ホロムイソウ、ホロムイスゲ、ホロムイイチゴなど和名にホロムイを冠する 7 種の固有種が発見された場所である。これらの植物は、全道的な湿原の減少にともない、</li> </ul>

		生育地も限られてきた。このような背景のある場所であることから、多様な関係者が参加して高層湿原の再生事業が進められている。
	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高層湿原の再生</li> <li>● 計画：北海道開発局 札幌開発建設部「石狩川下流自然再生計画書」（平成 19 年 3 月策定、平成 26 年 1 月改定）</li> </ul>
	実施主体、及び、関係者との関わり等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施主体：国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部</li> <li>● 関係者：関係行政機関等や、石狩川下流幌向地区に関わり、湿地環境の再生、地域の活性化等に意欲を有する方をもって構成される「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」にて、自然再生の計画段階から実施に至るまで、ワークショップメンバーにより協働・連携してきた。</li> </ul>
事業内容	主な実施内容	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高水敷を活用し、湿地環境を整備（遮水整備）</li> </ul> <p>※治水安全度を優先しつつ、目標年代を昭和 30 年として可能な範囲で河川環境整備と保全を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 湿生植物やミズゴケの導入</li> <li>● 倒木の処理</li> <li>● 外来種と在来種の管理 等</li> </ul> <p>【イベント開催、地域連携活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の高校との意見交換の実施</li> <li>● 湿生植物の移植体験イベントの開催</li> <li>● 地域イベントによる外来種の駆除の開催 等</li> </ul> <p>【モニタリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 効果検証のための調査、中長期的なモニタリングの実施 等</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 駐車スペースの整備 等</li> </ul>
	規模（面積、金額、期間など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 整備面積：湿地 7ha</li> <li>● 期間：平成 19 年 3 月（計画策定）～</li> </ul> <p>※第 1 回ワークショップは平成 26 年 2 月 24 日開催。</p>
事業の効果	測定方法・結果の活用方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2016（平成 28）年度に湿地整備（遮水整備）を実施し、種苗採取、育苗・増殖方法を確立し、モニタリングを継続実施している。その結果、湿性植物の生育面積は、湿地整備前は 0 m<sup>2</sup>であったのが、整備後 7 年経過した 2023（令和 5）年には 11,500 m<sup>2</sup>と拡大している。</li> </ul>
事業を進める上での課題と対応	課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高層湿原の環境を維持し、湿原景観を形成していくためには、地域による持続的な維持作業が必要。また、湿性植物の苗づくりの方法など、湿原づくりのノウハウを地域に伝承することも必要。</li> </ul>

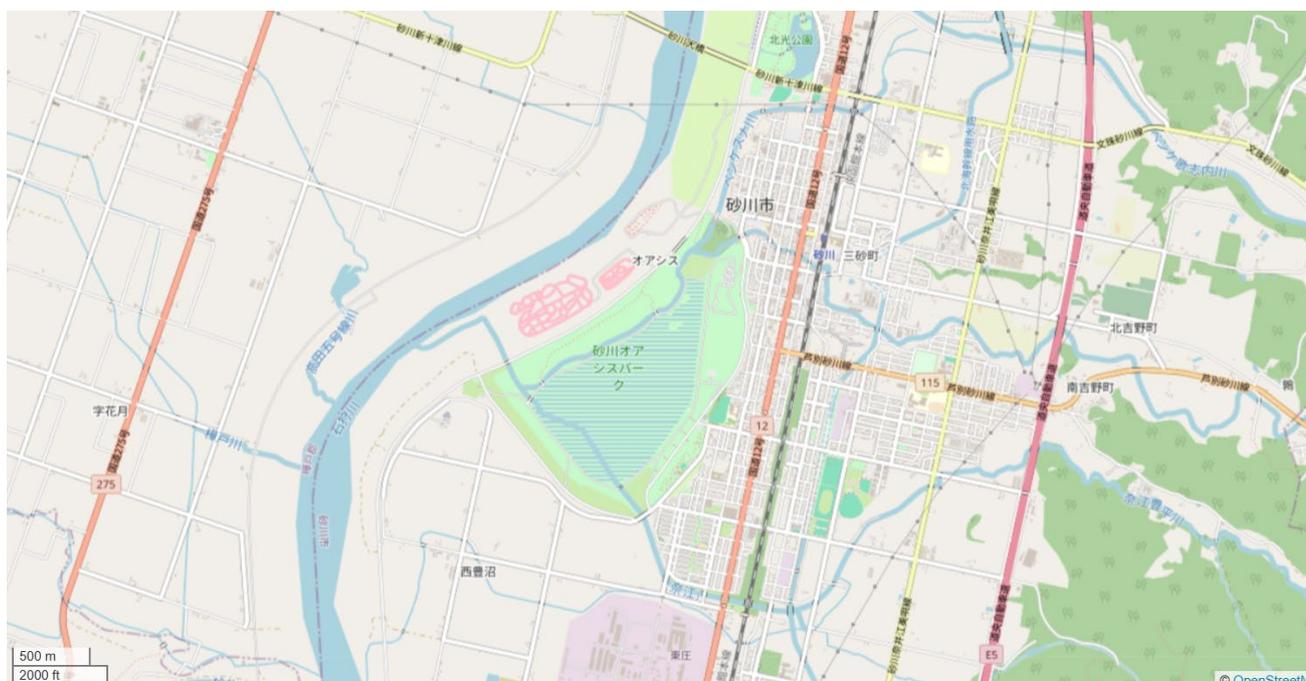
## 2. 第2回 Eco-DRR 見学会 開催概要（予定）

### ■ 実施概要

日時	2025年2月7日（金）13時00分～16時00分 第1部 見学会 13:00～14:15 第2部 講演会 14:30～16:00（オンラインとの併用）
目的	自治体職員が様々な自然災害を対象とした幅広い取組に触れ学び、自然・生態系等を活用して災害に備える環境づくりを考えるきっかけを作ること
見学地	砂川遊水地
対象者	砂川市の近隣自治体等、道内の自治体職員

### ■ 見学場所

事業名、実施主体	区分	所在自治体（近隣自治体）
砂川オアシスパーク （砂川遊水地） / 札幌開発建設部	事業タイプ・ステータス：利用中/一般市民利用都市・地域再生等利用区域	砂川市 （滝川市、赤平市、歌志内市、上砂川町、奈井江町、浦臼町、新十津川町）
	生態系タイプ：遊水地/河川 活動のタイプ：自然環境の保全、復元、活用/ 土地取得/自然保護思想の普及啓発/環境教育	



出典：Open Street Map

■ タイムテーブル

時間	内容
13:00	砂川オアシスパーク会議室に集合
13:00 - 13:10	挨拶・本日の説明 環境省北海道地方環境事務所
第1部 見学会	
13:10 - 14:15	砂川オアシスパーク（砂川遊水地）見学 札幌開発建設部 滝川河川事務所 *説明及び現地案内（現地への移動時間を含む）
第2部 講演会	
14:30 - 15:00	北海道地方の気候の変化 札幌管区气象台 河原 恭一氏
15:00 - 15:20	気候変動適応における広域アクションプラン 日本エヌ・ユー・エス株式会社
15:20 - 15:30	石狩川流域における Eco-DRR の実装 ～水害リスク軽減に寄与する事例紹介～ 日本エヌ・ユー・エス株式会社
15:30 - 15:50	気候変動による影響 -防災・減災のための備え- 北海道立総合研究機構 野口 泉氏
15:50 - 16:00	質疑・意見交換
16:00	閉会挨拶 環境省北海道地方環境事務所

以上